

上越教育大学附属図書館ニュース

Vol. **9**

2016.10

特集：「月曜〇〇講座」をはじめました！



「月曜〇〇講座」をはじめました！

「月曜〇〇講座」を知っていますか？

「月曜〇〇講座」とは、学生さんの学習支援を目的に、2016年度から始めた学習講座です。授業期間中のほぼ毎週月曜日に、情報交流ゾーン（アクティブ・ラーニング・スペース）で、みなさんの「学び」に役に立つ講義や演習を行っています。

平成28年度前期は以下の15講座を開催しました。少しだけ内容を紹介します。

あっ！今日は月曜日だった！図書館へ急げ！


月曜〇〇講座

附属図書館2階の情報交流ゾーンではほぼ毎週開催！
予約不要で、誰でも参加可能です。
学生生活のヒント満載の内容をお届けします。

【第1回】4月11日（月）9:10～40, 12:20～50, 18:00～30
【全3回（同一内容）】
図書館と図書館員の活用術
講師：下城 陽介（附属図書館職員）
内容：図書館と図書館員を使いこなす方法を伝授します。

【第2回】4月18日（月）9:10～40, 12:20～50, 18:00～30
【全3回（同一内容）】
講義ノートの取り方：高校とどう違う？
講師：下城 陽介（附属図書館職員）
内容：大学の講義は高校と違い、板書がほとんどありません。様々な講義ノートの取り方を説明します。

【第3回】4月25日（月）12:20～12:50
はじめてのパソコン、はじめてのパワーポイント
講師：佐藤 秀（情報メディア教育支援センター職員）
内容：はじめてパソコンを持った方向けに、授業でも使うパワーポイントの使い方を紹介します。用意するもの：パワーポイントの入ったパソコンを持ってきてください。



【問い合わせ先】上越教育大学附属図書館情報サービス担当 下城
TEL：025-521-3606 Mail：gservice@juen.ac.jp

月曜〇〇講座

あれっ！あれれっ！
図書館でなんかやってる！

【開催場所】附属図書館2階情報交流ゾーン

【第4回】5月2日（月）13:00～14:00
【準備の進め方を語る！】
二次方程式の先にあるもの
講師：中川 仁 先生（自然系教育実践コース）

【第5回】5月9日（月）12:20～12:50
図書館員になるには
講師：下城 陽介（附属図書館職員）

【第6回】5月16日（月）13:00～14:00
メールの書き方
講師：日笠 広行 先生（言語系教育実践コース）

【第7回】5月23日（月）12:20～12:50, 18:00～18:30
【生活系・情報系】
Cinii Articles(日本の論文を探す)の使い方
講師：岡崎 敬子（附属図書館職員）

【第8回】5月30日（月）12:20～12:50
著作権って何？
講師：下城 陽介（附属図書館職員）

【問い合わせ先】上越教育大学附属図書館情報サービス担当 下城
TEL：025-521-3606 Mail：gservice@juen.ac.jp

月曜〇〇講座

【開催場所】附属図書館2階情報交流ゾーン

6月はレポート作成応援月間。

【第9回】6月6日（月）12:20～12:50
レポートを書く前に：色々なレポート本の紹介
講師：下城 陽介（附属図書館職員）

【第10回】6月13日（月）18:00～19:00
レポートの書き方（入門編）
講師：城間 裕子 先生（FD-08-ICT・学習研究コース）

【第11回】6月20日（月）18:00～18:30
読みやすい文章の秘密
講師：長谷川 佑介 先生（言語系教育実践コース）

【第12回】6月27日（月）12:20～12:50
研究最前線！電子ジャーナル入門
内容：電子ジャーナルって何？から始まります。
講師：岡崎 敬子（附属図書館職員）



【問い合わせ先】上越教育大学附属図書館情報サービス担当 下城
TEL：025-521-3606 Mail：gservice@juen.ac.jp

月曜〇〇講座


【開催場所】附属図書館2階情報交流ゾーン

【第13回】7月4日（月）12:20～12:50
大学の試験をどう乗り切るか？：試験対策の紹介
講師：下城 陽介（附属図書館職員）

【第14回】7月11日（月）18:00～19:00
どのように「問い」を立てるか？
講師：野口 孝則 先生（生活・健康系教育実践コース）

【第15回】7月25日（月）18:00～18:30
論文の探し方：教育分野の論文を中心に
講師：秋山 裕子（附属図書館職員）

月曜日だから、
図書館に行こう！



【問い合わせ先】上越教育大学附属図書館情報サービス担当 下城
TEL：025-521-3606 Mail：gservice@juen.ac.jp

【第1回】4月11日（月）9:10～9:40, 12:20～12:50, 18:00～18:30

図書館と図書館員の活用術（参加者：計25名）

講師：下城 陽介（附属図書館職員）

内容：新入生向けに、「図書館と図書館員を活用しましょう」と呼びかけました。また、図書館でどんなサービスを受けられるのか？を紹介しました。

【第2回】4月18日（月）9:10～9:40, 12:20～12:50, 18:00～18:30

講義ノートの取り方：高校とどう違う？（参加者：計6名）

講師：下城 陽介（附属図書館職員）

内容：高校と大学の授業の違い、大学の授業に即したノートの取り方を講義しました。

【第3回】4月25日（月）12:20～12:50

はじめてのパソコン、はじめてのパワーポイント（参加者：7名）

講師：佐藤 秀（情報メディア教育支援センター職員）

内容：プレゼンのWebサービス「Prezi」（<https://prezi.com/>）を使って、パソコンの仕組みをわかりやすく紹介しました。また、「impress.js」というプレゼンソフトで、フォルダ構成について説明しました。最後にパワーポイントを実際に触りながら質問に答えていきました。

パソコンの操作で分からないことがあったら「情報メディア教育支援センター」の職員に尋ねてみてね！



コラム I なぜ「月曜〇〇講座」を始めたのか？



「毎週、図書館で、何かしらのイベントができないかな？」と考えたのは、千葉大学アカデミック・リンク・センター（附属図書館）が「1210 アカリンアワー」というイベントをやっていたからでした。当時は「でっかい大学の図書館だから毎週のようにイベントを開催できるでしょ。」という感覚でした。

しかし、とある研修に参加したことで、その鬱屈した感情は吹き飛びました。その研修とは、国立情報学研究所主催の「学術情報リテラシー教育担当者研修¹」です。その研修で同じグループになった共立女子大学・短期大学図書館の方が、「毎週、図書館で講義などをしているよ。」という事例²を話してくれました。「ちっちゃい大学³でも毎週のようにイベントができるんだ！」という驚きとともに、「うち⁴でも、やってやろうじゃないか」と闘争心に火が着きました。そんなことがきっかけで始めたのが「月曜〇〇講座」でした。

さて、そんな「月曜〇〇講座」ですが、軌道に乗る⁵までは紆余曲折ありました。まず、時間帯をどこにするのが良いかが分からない⁶ということがありました。何回か試すことで「午前中は人が集まらない」という結論に達しました。

次に、海のものとも山のものとも分からない「月曜〇〇講座」に先生方が講師を引き受けてくれるのか？という懸念がありました。いつも最初はメールで打診するのですが、返信があるまで軽い不安に駆られていました⁷。しかし、熱を込めたメールが奏功しているのか、先生方が応じてくれることで、ここまでなんとか、やってこられています。多謝。（下城）

¹ 「学術情報リテラシー教育に必要な情報リテラシー全般に渡る知識・技能の修得を目的」とした研修でした（国立情報学研究所の Web サイト [<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/literacy/>] より）。

² 「水曜ランチセミナー」というイベントです。もしかすると毎週やってないかも…。聞き間違えか？

³ 当時は「ちっちゃい大学」と思っていたのですが、この文章を書くために調べ直したら、なんと！学生数は 5,500 人程いました。ちなみに上教大は 1,300 人ほど。すなわち、「ちっちゃい大学でも毎週のようにイベントができる！」という思い込みのおかげで「月曜〇〇講座」はできました、ということになりそうです。思い込み、恐るべし。

⁴ 脚注に示すまでも無いですが「上越教育大学」のことです。

⁵ まだ軌道に乗っていない、という話もあるかもしれない。

⁶ 曜日にも迷いましたが、4月に新入生用の講座を行う予定だったので、「学部1年生」の必修科目が少ない月曜日にしました。ちなみに水曜午後は授業が少ないので狙い目でしたが、学生支援課（プレイスメントプラザ）の就職ガイダンス等のイベントが、てんこ盛りの様相を呈していたので止めました。

⁷ 最近（10月現在）は「もう認知されたいだろう」と楽観的になっていること、慣れてきたことから、あまり不安にならない。

Pick Up!!

【第4回】5月2日(月) 13:00~14:00

【学問の楽しさを語る①】二次方程式の先にあるもの(参加者:11名)

講師:中川 仁 先生(自然系教育実践コース)



● レポート(下城)

数学者の中川先生の研究の一端を垣間見ることができる講義でした。

まず、イントロダクションで専門の「整数論(数についての学問)」についてお話がありました。整数論にはだれでも問題の意味がわかるが未解決の問題がたくさんあるところが魅力ですということでした。

次に、「2次方程式の話」から「研究結果の中で一番よいと思っているもの」について説明がありました。その研究結果とは、当時大阪大学の博士課程の大学院生だった大野泰生さんが修士論文の中で「ある等式が成立するだろう」と述べていた研究です。その研究を大野さんが数学会の講演で予想として発表しました。先生がその講演を聞いた瞬間に「ある条件を満たす場合の証明」が頭に浮かんでいたということでした。一般の場合の証明を完成させるのにはそれから2年かかったそうです。これまで先生が研究してきてよく知っていることがすべて使えて、この予想を解くためには必要ないことは余り知らなかったという幸運に恵まれ、そういう予想を日本人の大野さんが見つけたという偶然が重なったおかげで、先生が証明することができたと思うということでした。大野予想を中川定理へ昇華させた、研究者の頭の中(直感や考え方)を少し覗いたような話でした。

さて、2次方程式から中川定理へ続く詳しい証明は、上越教育大学リポジトリ¹に掲載した配付資料(<http://hdl.handle.net/10513/00007186>)の数式を、行間を読みながらゆっくりと追いかけてみてください(蛇足かもしれませんが、中川先生は数ヶ月~数年かけて1冊の数学書を読むそうです)。

難しい証明を簡単なところから、高度なところへ段階的に講義をしてくださった中川先生と、参加してくださった学生のみなさん、ありがとうございました。

¹上越教育大学の在籍者が作成した教育・研究成果を電子データの形で収集・保存し、インターネットで公開する電子アーカイブシステムのこと。ちなみに、リポジトリ(repository)の直訳は「宝庫・貯蔵庫」です。大学の「宝」が蓄積されています。

【第5回】5月9日（月）12:20～12:50

図書館員になるには（参加者：0名）

講師：下城 陽介（附属図書館職員）

内容：学校図書館の司書教諭や学校司書になるには、どうい資格が必要で、どんな就活をすれば良いのかを紹介するはずでした。参加者がいなかったため、演題がまずかったなあと反省しきりです。学校図書館を活用できる先生になるために、「学校図書館を活用しよう！」みたいなタイトルだったら、参加したいですか？

【第6回】5月16日（月）13:00～14:00

メールの書き方（参加者：5名）

講師：白岩 広行 先生（言語系教育実践コース）

内容：メールの書き方について、どんな場面で、どうい文面を書くのかを、講義と演習をととして学びました。演習では「白岩先生をゼミの飲み会に誘ってみよう」という課題が出されました。



【第7回】5月23日（月）12:20～12:50, 18:00～18:30

CiNii Articles(日本の論文を探す)の使い方（参加者：計5名）

講師：岡崎 敬子（附属図書館職員）

内容：CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>) を使って、日本語論文の探し方を解説しました。また、上教大の図書館に論文が無かったときの取り寄せ方法を、実際の画面を見ながら説明しました。

【第8回】5月30日（月）12:20～12:50

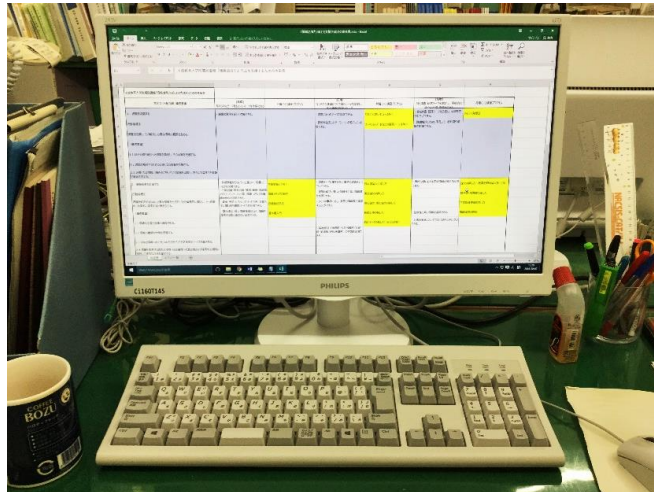
著作権って何？（参加者：2名）

講師：下城 陽介（附属図書館職員）

内容：著作権の精神（人がつくったものを勝手に使っちゃダメ）、引用の注意点、学校現場での注意点を、質問を交えつつ講義しました。

コラムⅡ 「月曜〇〇講座」の作り方

「月曜〇〇講座」はどうやってつくられているんでしょうか？その一端をご紹介します。



担当のデスク周り

まずは講義内容を決めます。

1. 1ヶ月前くらいに次の月のテーマを決めます（6月の場合は「レポート応援月間」でした）。そのテーマに沿った講義名を3～5つ（その月の月曜日の数による）考えます。
2. 月のテーマが決まらないときは、何でも良いので学生さんに役立つような講義名を3～5つ考えます（著作権等）。
3. 講義名を参考に、教員、図書館職員、事務職員に打診します。大体の方々は了承してくれます。
4. もしやってくれる人が少なく穴が開いてしまったら、図書館員の得意分野（情報の探し方）を講義に加えます。これで、その月の講義が決まります。

ここまで来れば、後は当日を待つばかり、と思いきや、もう少しやる必要があります。広報と準備です。

5. 「みなさん来てね」と期待を込めて、ポスターを作成します。
6. 掲示板への掲示や、図書館 Web サイト等で学生さんに通知します。
7. 当日までに講師の方に配付資料をもらい、10～15部程度、印刷します。

そして当日です。

8. 午前中の早い時間に、図書館入り口などに掲示を出したりして「本日開催します感」を出します。
9. 受付表、アンケート、配付資料を情報交流ゾーン（図書館2階ゲートを入ってすぐの場所）に準備します。
10. 1時間前くらいに会場の準備をします。
11. 5分前くらいに講師の方が来るので、それまで（仕事をしながら）待機します。
12. 講師の方を出迎えます。
13. 参加してくれる学生さんが来るのを待ちます。開始時間が近づいても、学生さんがあまり来ないと変な汗が出てきます。予想以上に参加してくれる学生さんが多いと、アタフタしながら配付資料等を追加で用意します。
14. 講義が始まります。ここでやっと一安心できます。
15. 記録のために、写真を撮ったり、講義を聴いたりします。

大体こんな感じで「月曜〇〇講座」が開催されます。講義後のアンケート結果を見て、次の月のテーマが決まったりするので、もし参加したら、アンケートの自由記述欄に書いてください。（下城）

6月はレポート作成応援月間として、開催しました。

【第9回】6月6日(月) 12:20~12:50

レポートを書く前に：色々なレポート本の紹介（参加者：2名）

講師：下城 陽介（附属図書館職員）

内容：レポートを書くためのノウハウが書かれている本を11冊紹介しました。特にオススメする本は、[戸田山 和久（2012）『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版（図書館3階にあります。請求記号 816.5/To 17）]です。役に立つ上に、語り口が面白いので読みやすいです。



【第10回】6月13日(月) 18:00~19:00

レポートの書き方（入門編）（参加者：9名）

講師：城間 祥子 先生（グローバル・ICT・学習研究コース）

内容：読み手を意識すること、「事実」と「意見」を分けること、「引用」のお作法、推敲の重要性などを講義しました。質疑では「カギ括弧（「『』」）の使い方を知りたい」などの質問が出ました。アンケートには「ぜひ、応用編を!!」というご意見もありました。



【第11回】6月20日（月）18:00～18:30

読みやすい文章の秘密（参加者：12名）

講師：長谷川 佑介 先生（言語系教育実践コース）

内容：読みやすい文章を書くための3つの工夫（句読点を上手に使うこと、新しい情報を文末に書くこと、つなぎ言葉や図を上手に使うこと）を紹介しながら、どうしてその工夫が効果的なのかを解説してもらいました。所々で「隣の人と～について考えてみてください」、「隣の人と～をやってみてください」という時間があり、アクティブな講義でした。



【第12回】6月27日（月）12:20～12:50

研究最前線！電子ジャーナル入門（参加者：3名）

講師：岡崎 敬子（附属図書館職員）

内容：電子ジャーナルって何？という初歩的なことから始め、実際に「PDF」や「Web（html）の文章」にたどり着けるように、デモをしながら講義しました。

大学（図書館）で契約している電子ジャーナルは、原則学外からは見られないので、ご注意ください。大学でダウンロードしましょう。学外から電子ジャーナルを見る方法については図書館 Web サイト（<http://www.lib.juen.ac.jp/research/journal-gakugai.html>）をご覧ください。



【第13回】7月4日（月） 12:20～12:50

大学の試験をどう乗り切るか？：試験対策の紹介（参加者：2名）

講師：下城 陽介（附属図書館職員）

内容：大学の試験は、論述式が多い・教科書や資料の持ち込みが可能な場合があるといった特徴を紹介しました。また対策として「講義ノートを見直すこと」、「先輩に昨年の試験内容を聞いてみること」、「試験は読みやすい字で書くこと」を説明しました。

Pick Up!!

【第14回】7月11日（月） 18:00～19:00

どのように「問い」を立てるか？：教育現場に役に立つ研究を実践するために（参加者：8名）

講師：野口 孝則 先生（生活・健康系教育実践コース）



● レポート（下城）

「問い」は「立てる」というよりも、むしろ自分の内側にある「関心・感心（面白い・ワクワク・ドキドキ）を探す」ことにあるという講義でした。

まず、野口先生の研究分野について「栄養学」と「食育」であるという説明がありました。その後、講義が始まりました。「研究上の問い」を中心に「研究すること」について5点の説明と、その途中で学生さんへの問いかけがありました。

1点目は「なぜ研究を行うのか」についてです。それは教育の有効性・必要性を証明するため、教育や保育における技法の開発のため、実践の現場における結果の評価をし、さらなる改善をするためであるということでした。

2点目は『「実践的な科学」の研究にチャレンジすることについてです。科学とは「基礎」と「実践」の相互補完によって発展してきた（今後も発展していく）もので、研究成果は、科学的な新規性の価値のみならず、教育現場での実践に有効であり、現場の教育をより良いものにする（改善・向上）ための研究成果であることが望まれるということでした。つまり科学的根拠に基づいた実践（Evidence-based Practice）が必要であるということでした。

3点目は『研究上の問い』を問うことについてです。何を、知りたいのか？なぜ、知りたいのか？その答えは、誰の役に立つのか？その答えは、より良いものに変えてくれるものか？という自問が大切だということでした。加えて、面白いか？ワクワクするか？ドキドキするか？こういう気持ち（感心）がないと続かないということでした。

4点目は『研究上の問い』の探し方についてです。日常の実践現場の中から、指導教員や仲間との議論の中から、発表されている研究の中から探しましょうとのことでした。

4点の説明を終えると、ここで野口先生より、参加者の学生さんに「研究課題（感心）は何ですか？」と問いかけがありました。学生さんが答えると、それについて野口先生がコメントをするという講義になりました。学生さんの研究課題は、私が聞いても「面白そうだな」、「その問題が解決できれば、役に立つな」というものがありました。

最後の5点目は補足として『研究上の問い』の絞り込みの説明がありました。それは文献検索の重要性及びリサーチクエスチョンの構造化についてでした。リサーチクエスチョンについては「PECO（ペコ）、や PICO（ピコ）」を以下のとおり、ご紹介いただきました。

- P：対象者（Patients, Population）
- E：暴露要因（Exposure） or I：介入（Intervention）
- C：比較対照（Comparison）
- O：結果・アウトカム（Outcome）

つまりどのような人に、何をすると、どのような場合と比較して、どのような結果になるか、また新しい事実に迫ることが出来るのかということ念頭に置いて「問い」を絞り込むということでした。

ここで一旦、講座は終了しましたが、その後も数十分の質疑が続きました。とても良い雰囲気の中で講義をしてくださった野口先生と、参加してくださった学生のみなさん、ありがとうございました。

【第15回】7月25日（月） 18:00～18:30

論文の探し方：教育分野の論文を中心に（参加者：0名）

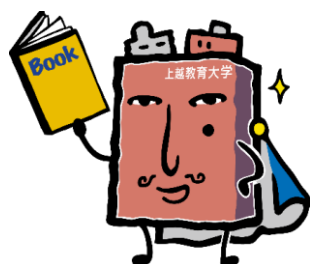
講師：秋山 裕子（附属図書館職員）

内容：教育分野の論文をどう探すか？を紹介するはずでした。図書館のWebサイト（<http://www.lib.juen.ac.jp/research/pathfinder/kyoiku-ronbun.pdf>）にパスファインダー（探し方の道しるべ）がありますので参考にどうでしょう？試験期間直前だからなのか、はたまたタイトルがまずかったのか、参加者がいませんでした。

さて、内容を見て「出たかったな～(ToT)」と嘆いている、そのあなた！朗報です。講座で配った資料の一部は上越教育大学リポジトリ（https://juen.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=1180&count=20&order=16&pn=1）からダウンロードできます。

最後に、「月曜〇〇講座」で「こういう講義をやってもらいたい！」、「こんなことが知りたい！」などがありましたら、お気軽に図書館へご連絡ください。今後も皆様のご意見・ご感想を反映させて、より良い「月曜〇〇講座」を目指します。

それでは、図書館でお待ちしています！



Library Information

- 今年も国立女性教育会館から図書 100 冊がやってきました！

10 月から 12 月まで、国立女性教育会館の蔵書 100 冊をお借りして、展示・貸出をしています（8 冊 2 週間）。「学校」、「人間関係」、「児童福祉」、「生活」等に関するテーマの図書です。どうぞご覧ください！



- Reader's Digest が 6 月号から入っています！（～9 月号はアジア版、10 月号～は US 版）



多種多様な分野の短文記事が満載！読みやすい英文で、英語多読学習にもぴったり。初心者さんとはとにかく短い記事からはじめてみましょう（レシピとか）。

先に公式サイト（US 版 <http://www.rd.com/>、アジア版 <http://www.rdasia.com/> など）の記事を Web 翻訳して読むと、とつきやすくなります（サイトで探すより、Google 等でタイトル検索がオススメです）。

大学院学生さんからのリクエストにより、半年分購入してみて、利用実績により来年度以降の購入を検討することになりました。最新号の表紙に付箋を貼って、利用状況を調査しています。バックナンバーは貸出できます。ぜひお手にとってみてください！

編集後記

「月曜〇〇講座」に参加してみたくありませんか？ 10 月は統計月間として開催中です。11 月は特にテーマはありませんが、「教員採用試験」論文作成に役立つ『アイデア発想法』、「論理的文章を書くための『接続詞』入門」などの講座を予定しています。興味をもたれた方は、是非、ご参加ください。さて、この冊子を作成しながら「月曜〇〇講座」は先生方の協力のおかげで成り立っているのだなということをしみじみ感じました。この場を借りて今一度、御礼申し上げます。図書館の一講座のために一肌脱いでいただき、大変助かりました。ありがとうございました。（下）

上越教育大学附属図書館ニュース Vol.9 2016 年 10 月 24 日発行

編集・発行 / 上越教育大学附属図書館

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 番地 Tel : 025-521-3606 Fax : 025-521-3609

E-mail : gservice@juen.ac.jp URL : <http://www.lib.juen.ac.jp/> Twitter : https://twitter.com/juen_lib

facebook : <https://www.facebook.com/juenlib>